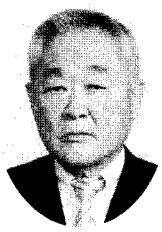
埼玉県退職校長会　会報

題字・新井俊一
第181号
令和6年4月

1　巻頭言
2　理事会報告
3　いまを生きる
9　定期総会の案内
10　一人一言
16　長寿会員・物故会員
18　校長退職後の再就職・待遇実態調査
20　文芸

期待される学校支援活動

埼玉県退職校長会副会長　野口淳一



現職を退いて17年、現在学校支援活動や人権擁護委員、民生児童委員として立場・目的を変えて学校を訪問し、教職員の頑張りを目にし、学校生活における様々な場面での児童生徒の姿に接する機会を与えて頂いている。適度な緊張感を持っての訪問は、生活リズムに変化を与え健康を維持することに大きく役立っているものと感謝している。

日々の子ども達の学校生活の姿を現職時代の子ども達に重ねてみると大きな違いは感じない。しかし、育つ環境は大きく変化している。学校現場も同様、一人一台のタブレットを活用しての授業や宿題などの連絡手段、厚さを増した教科書、学校行事の精選等、その変容は目を見張るばかりである。

過日、米オックスフォード大学のマイケル・A・オズボーン准教授らによって発表された論文「雇用の未来～コンピュータ化によって仕事は失われるのか～」を目にする機会を得た。「20年後までに人類の仕事は50%が人工知能ないし機械によって代替され消滅する」と予測されたもので大きな衝撃を受けた。まだ途上であるが、急速なグローバル化の進展やICTやAIの技術革新を目にするたび現実化するのではという感想を持った。

このような中で、次代を担う子ども達に、基盤となる知識・理解の定着とともに、①創造力②コミュニケーション力③ICTの活用能力等の資質・能力の育成が求められている。他にも多様な課題を抱える学校現場からの支援への期待は益々高まるものと考える。

各支部・各班、或いは個別に現職時の豊かな経験や知識等を活かしての支援活動が進められている。教育委員会との連携を一層密にし、現場のニーズに応える学校支援の在り方を今後とも模索していきたいと思っている。

自彊（じきょう）して息（や）まず

秩父支部長　前堅進一

私はコロナウイルスやインフルエンザ等の様々な感染症が発生する中、人との接触が減少しコミュニケーションが少なくなっていることに非常に懸念を抱いています。「社会とのつながり」が減少すると、心身の衰え・虚弱（フレイル）が加速すると言われます。秩父支部ではフレイル防止の観点からも、会員相互の交流の機会を増やしコミュニケーション活動を活発化したいと考えています。昨年度「会費・活動内容等検討委員会」を新設してアンケート調査を実施し検討中ですが、活動内容等を一層充実させ魅力を高めるための方策について検討を重ねています。より多くの会員が参加できるように身近な場所や会場での交流会等を計画するとともに、交流会参加者への補助等を含めて指向しています。

秩父地方には古くから「百の説法より一の実行尊く、百の訓言より一の教師示範に真価あることを忘るべからず、不言感化こそ教育の神髄なり」（増田玄次郎吉田小学校初代校長）の言葉が伝えられています。教員希望者の減少や学校管理職希望者の激減などの現状を憂う時、この言葉を足掛かりに、我々会員には学校教育を側面から支援し、人材育成の大切さ・楽しさ、学校経営の在り方・楽しさなどを伝えていくことが求められていると思います。私は「易経」にある「自彊して息まず」（天の運行は健やかで一刻も休むことがない。それに則って）つとめてやむことのない努力をしなければならない）の言葉が好きです。この言葉のように自己研鑽に励み何事に対しても不言感化できるよう自己を高めていきたいと決意を新たにしています。